

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成27年2月6日(金) 13:30~14:45

対 象 第2学年3組男子17名女子17名計34名

指 導 者 箕 理 沙 子

1. 単元名 くらべて読もう

教材名 『わたしはおねえさん』(光村図書 2年下)、すみれちゃんシリーズ

2. 単元の目標

- 等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと結び付けながら興味をもって読もうとしている。(国語に関する関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動や場面の様子から想像を広げて読んだり、登場人物の心の変化に着目して自分の経験や気持ちと結び付けながら読み、登場人物の心の成長に気付いて発表したりすることができる。(読む能力 ウ・オ)
- 主語と述語の関係に気を付けて文章を読んだり書いたりすることができる。(言語についての知識・理解・技能 イ(カ))

3. 単元について

(1) 児童の実態

本を読むことが大好きな児童が多い。日頃から本係がおすすめの本を紹介し、友達の薦める本に関心を持ち、お互いに貸し借りをして読書活動が活発になるなど本に親しみをもっている。11月の読書月間では、1ヶ月に1人あたり平均79冊の本を読んでいた。毎週の図書の時間には、司書による様々な本の読み聞かせの機会があり、それを楽しみにしている児童も多い。昨年度「シリーズでよんでみよう」という単元で日常的にシリーズ読書を楽しむ姿が見られるようになった。もちろん読書量や読書の傾向には個人差があるが、最近は「マジックツリーマウスシリーズ」や「じごくのそうべいシリーズ」、「まじょ子シリーズ」、「かいけつゾロリシリーズ」などを図書の時間に借りている。本単元でも「すみれちゃんシリーズ」を0次で読むことで、意欲的に学習に取り組むのではないかと考える。

また、8月に行った「おしごとレポーターになろう」という単元では、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う学習を行った。自分が憧れる仕事について図書資料を読み、すごいなと思ったことを探すことで、文章の内容と自分が既にもっている知識や経験などと結び付けて解釈し、理解を深めることができた。例えば、宇宙飛行士の本を読んだ児童は、「トレーニングするところを読んですごいと思いました。私はトレーニングなんかしていないけど、宇宙飛行士の人はしていて、体力がいるんだなと思ってカッコいいと思いました。私もこれから宇宙飛行士の夢に近付けるように運動を頑張りたいです。」と自分の思いや考えをまとめることができた。しかし、説明的な文章ではなく、文学的な文章で主人公と自分とを重ね合わせ、「成長」に着目しながら読むのは本単元が初めてである。本単元で文章の内容と自分の経験とを結び付けながら読むことは、中学年での「一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」や、高学年での「自分の考えを広げたり深めたりすること」につながっていく大切な入口となる。「自分なら…」「自分も…」と主体的に読む姿勢をもつことで、自分自身を掘り下げて自分の成長にも気付けるようにしたい。

(2) 学習材について

本単元で使用する学習材「わたしはおねえさん」の主人公は、児童と同じ2年生である。「すみれちゃん」と自分を同化させることも容易で、すみれちゃんの行動やすみれちゃんを取り巻く小さな出来事を通して、すみれちゃんの心の成長を感じることができる作品である。特に本校の児童は、1年生と年間を通して「お相手さん交流」を行っているので、すみれちゃんの妹に対する同じような体験をしている児童も多いであろう。「お相手さん交流」とは、入学式前には教室を飾ったり、お花を植えて1年生の入学をお祝いし、その後もそのお相手さんと一緒に学校探検に行ったり、アサガオの種植えを手伝ったり、ジャガイモパーティーを開いたり、秋まつりに招待したり、昔遊びを教えてあげたりするという1年生と2年生の一人対一人の交流である。すみれちゃんの目と心に寄り添って、話者が語っているように書かれた本学習材は、成長の実感にあふれた作品である。自分より幼いもの、弱い立場にある者を理解し、理不尽な対応にも余裕をもって接することができる心の成長を、自分に引き寄せて読み取れるようにしたいと考え、本単元を設定した。

また、「すみれちゃんシリーズ」は、「すみれちゃん」、「すみれちゃんは一年生」、「すみれちゃんのあついなつ」、「すみれちゃんのすてきなプレゼント」の全4冊ある。「わたしはおねえさん」は、作者の石井睦美さんが教科書のための書き下ろしで書いたため、このシリーズの中には収録されていない。そもそも「シリーズ」とは、①1人の作家が書いたもので、主人公が同じもの、②主人公は異なるが、同一の作家が書いたもの、③作家も主人公も異なるが、読む対象を限定して読み手にふさわしいと考える作品を集めたもの、の3つに分けられると考える。第1学年では読書能力の発達段階を踏まえ、①のシリーズ作品（例：「ますだくんシリーズ」「がまくんとかえるくんシリーズ」など）を取り上げ、第2学年11月には②のシリーズ作品「レオ＝レオニシリーズ」を取り上げた。本単元で取り上げる「すみれちゃんシリーズ」4冊は①に分類されるが、昨年度学習したシリーズ作品と決定的に違うところは、このシリーズの主人公「すみれちゃん」が1冊ごとに幼稚園児、1年生、2年生、3年生という設定で学年が1つずつ上がっていることである。シリーズで読むことによって、「すみれちゃん」の成長に気付くとともに、「すみれちゃん」の成長を追体験することで自分の経験と結び付けながら読み進め、自分自身の成長にも気が付くことができるのではないかと考えた。「わたしはお姉さん」が2年生のすみれちゃんを描いた作品なので、「すみれちゃんシリーズ」の3冊目までは0次で全員読了しておき、4冊目は単元終了後に読み、どんな3年生になったのかについて思いを馳せると同時に、自分はどんな3年生になりたいかを考えるきっかけにしたい。

本単元は、生活科「未来に向かって自分探検」と関連付けて学習を進める。具体的には、生活科で生まれた頃から現在までを振り返る「成長記録」を作成する。生活科で自分の成長を振り返るときに、“成長”を取り上げた本を読むことで自分自身の幼い頃の気持ちを思い出すことができる。本単元では、現在の成長について振り返ったことが生活科の「成長記録」にも生かせると考える。

「すみれちゃんシリーズ」を0次¹で読むことで、主人公の幼い頃も知り、主人公をより身近に感じることができるであろう。小さい頃から知っている主人公が2年生になってどんな女の子になったのか、子どもたちは想像を広げながら読むと同時に、主人公の成長を追体験することを通して、自分の成長記録を書くための参考にすることができると思う。そして、「書いてよかった」「また書きたい」という喜びをぜひ体験させ、自信を高めることで、自立の基礎を目指す生活科のまとめにもつなげていきたい。主人公の行動や気持ちを読むことで、これまでの自分を見つめ直し、これからの自分の姿を意識するであろう。本学習材は2年生の子どもたちなりに、文学から自分の成長を感じ取る読書の力を育むことができると考える。

4. 研究テーマ「ことばを広げ、学びを拓く子の育成—実感のある『ことば』の学びを創る—」と

の関連

学習指導要領では、言語活動の充実が謳われ、0次から含めて適切な単元を貫く言語活動を設定し、実の場へ生かされる授業単元作りを進めていくこと、つまり、課題解決過程で子どもたちに付きたい力を身に付けさせるようにしていくことが必要だと考える。そして、他者とコミュニケーションをとりながら課題解決をしていくことが、協働的に学びが生まれる言語活動につながり、さらには「ことば」の吟味をしたり、新たな課題を発見したりするのではないか、「ことばを広げ、学びを拓く子の育成」につながるのではないかと考える。

そこで、本単元を貫く言語活動として「比べながら読む」ことを位置付けた。本単元で言う「比べながら読む」とは、主人公と自分とを重ね合わせ、想像を広げながら読んだり、文章の内容と自分の経験とを結び付けて主人公の成長について自分の思いや考えをまとめて発表したりすることである。学習指導要領解説国語編の第5学年及び第6学年「C読むことカ」に「比べて読むこと」と書かれているが、ここには「比べて読むこと」は、「様々な違いを発見する喜びを知り、知識や情報を豊かにしたり、読書の範囲を広げたりすることにつながり、多くの本や文章などを読むことの意義や楽しさを実感させることになる。それは、読書を日常的に行う読書生活の構築にも役立つ。」と述べられている。本単元では、高学年になった時そこに到達できるように並行読書をし、「すみれちゃんシリーズ」の1冊ごとに学年が1つ上がっていくという特徴を活用して、必要に応じて前のすみれちゃんだったらどうしてたかなと考えたり、「すみれちゃんシリーズ」を読み返してみたりすることで“成長”に着目して読み進めることができると考える。また、自分と主人公を比べて読むことで、自分自身の成長にも気付けるのではないかと考える。

「比べながら読む」ためには、登場人物の行動や場面の様子から自分と重ね合わせながら想像を広げて読まなければならない。また、児童が自分の成長を振り返る際、容易に思い付くのは身体的な成長や「できたかできないか」という能力的な成長であるが、心の成長にも気付けるようにしたい。そのためには、登場人物の心の変化に着目し、自分の経験や気持ちと比べながら読み、登場人物の心の成長に気付いて自分の思いや考えをまとめて発表することが必要である。学習材には、自分よりも幼い立場にある妹を理解し、理不尽な対応にも優しく接することができるまでの主人公の心の葛藤も表されている。主人公と妹の気持ちのすれ違いから、心が通い合うまでの心の動きを考えていくことは、自分自身と比べて読んだり、自分自身の心の成長にも気付いたりするきっかけとなるであろう。従って、本単元でねらう「場面の様子について、登場人物の行動を中心に創造を広げながら読むこと」(C読むことウ)と「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」(C読むことオ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。すみれちゃんと自分とを比べながら読み進めることで叙述が実感のある「ことば」となり、自分自身を掘り下げながら学びを拓いていけるようにしたい。

ⁱ大熊徹 2012 国語科学習指導過程づくり—どう発想を転換するか—習得と活用をリンクするヒント 明治図書出版

5. 学習指導計画 (全8時間)

次時	学習活動	☆指導上の留意点 ◆評価規準 [評価方法]
0次	・「すみれちゃん」シリーズを読む。	
1次	・生活科で自分の成長を振り返る。	
第1次	・生活科の学習を想起し、自分がお兄さん・お姉さんになったと思うことを話し合う。	☆意欲を高めるために自分たちの成長について自由に発表させる。 ◆学習課題を理解し、意欲的に教師のモデルを

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習材を読み、学習課題を理解するとともに、学習の見通しをもつ。 	<p>見たり、学習材を進んで読んだりしようとしている。〔観察・発言〕</p>
第2次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「すみれちゃん」がどんな女の子なのかを自分と比べながら読む。 	<p>☆すみれちゃんの好きなことや性格などのプロフィールを自分と比べながらまとめることですみれちゃん像を捉えられるようにする。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしはおねえさん」を、すみれちゃんと自分とを比べながら読み、すみれちゃんが自分一人ですることができるようになった成長ポイントを見付けて発表し合う。 	<p>☆「すみれちゃんシリーズ」を教室においておき、自由に自分で選んで読めるようにしておく。</p> <p>☆「わたしはおねえさん」の叙述だけを根拠にするのではなく、「すみれちゃんシリーズ」のすみれちゃんの様子も根拠にして前のすみれちゃんだったらどうしてたかなと考えることで、すみれちゃんの成長に気が付けるようにする。</p>
	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしはおねえさん」を、すみれちゃんと自分とを比べながら読み、すみれちゃんと妹とのかかわりの中での成長ポイントを見付けて発表し合う。 	<p>☆自分もこういうことあった、自分はこんなことできない、など自分自身と比べながら読むことで、すみれちゃんの成長ポイントが見付けられるようにする。</p>
	5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしはおねえさん」で学んだことを生かし、「すみれちゃんシリーズ」を読んでまだ見付けていないすみれちゃんの成長ポイントを見付けて発表し合う。 	<p>☆自分自身と比べられない児童には、毎日その日にあった出来事を簡単にまとめた「クラスの足あと」や生活科の「みつけたよカード」を参考にさせ、すみれちゃんと同じようなことがなかったかを思い出させる。</p> <p>☆書けたら声に出しながら読むことでおかしいところがないかを考えさせる。</p> <p>◆主語と述語との照応関係に注意しながら、文や文章を読んだり書いたりしている。〔観察・ノート〕</p> <p>◆すみれちゃんと自分の経験や気持ちを結び付けて比べながら読み、すみれちゃんの心の成長を発表している。〔発表・ノート〕</p> <p>◆すみれちゃんの行動や場面の様子から、すみれちゃんと自分とを重ね合わせ、想像を広げながら読んでいる。〔観察・ノート〕</p>
第3次	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の成長について話し合う。 	<p>☆「すみれちゃんシリーズ」を読むことによって、さまざまな自分の成長も発見できたことに気付かせる。特に、年下の子と年上になった自分との関わりにおける成長を確かめる。</p> <p>☆自分の成長について生活科で「成長記録」を完成させることを確認する。</p> <p>◆成長について話し合い、互いに感想を伝え合っている。〔感想・観察〕</p>

6. 本時の指導（4／8時間目）

（1）本時の目標

すみれちゃんの行動や場面の様子から想像を広げて読んだり、すみれちゃんの心の変化に着目して自分の経験や気持ちと結び付けながら読み、心の成長に気付いて発表したりすることができる。

（2）本時の展開

学習活動	☆指導上の留意点 ◆評価規準〔評価方法〕
1, 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確かめる。	☆今までの学習が振り返られるような掲示をしておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> すみれちゃんと自分とをくらべながら「わたしはおねえさん」を読み、すみれちゃんのせい長ポイントを見つけてはっぴょうし合おう。 </div>	
2, 「わたしはおねえさん」を微音読し、すみれちゃんと妹とのかかわりの中での成長ポイントを見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ サイドラインを引く。 ・ 全文掲示に「成長マーク」を貼る。 ・ ノートにすみれちゃんの成長ポイントと自分の経験や気持ちなどを書き、交流する。 	☆児童2名が前に出てきて、交流のやり方を例示することで交流のやりとりをどのようにしたらいいのかが分かるようにする。 ☆すみれちゃんが成長したなと思う姿（＝「成長ポイント」）を探しながら微音読するように声かけをする。 ☆成長ポイントを見付けたら、全文掲示に「成長マーク」（記名した矢印形の付箋）を貼ることで、協働的な対話ができるようにする。どうしてそこを成長ポイントにしたのか、自分はどうなのかななどを交流し合う。そうすることによって、同じところを成長ポイントに選んだ児童同士で交流した場合、自分の経験や気持ちと結び付けながら読むことで「自分も…」「自分だったら…」というその児童なりの思いが現れ、具体的なエピソードが異なることに気付くことができる。違うところを成長ポイントに選んだ児童同士で交流した場合、自分では気付かなかった新たな成長を発見できる。交流のやり方としては、ブックリストが置いてあるスペースに交流したい相手とペアになって行き、成長ポイントを見付けたページを開き、理由や自分のエピソードを互いに話し合う。
3, 見付けた成長ポイントについて発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流したことやそこから考えたこと、思ったことなどを全体で発表する。 	☆「わたしはおねえさん」の叙述だけを根拠にするのではなく、「すみれちゃんシリーズ」のすみれちゃんの様子も根拠にして前のすみれちゃんだったらどうしてたかなと考えることで、すみれちゃんの成長に気が付けるようにする。また、前のすみれちゃんの様子も参考にできるように、「すみれちゃんシリーズ」を教室に置いておき、自由に自分で選んで読めるようにしておく。 ☆自分もこういうことあった、自分はこんなことできない、など自分自身と比べながら読むことで、すみれちゃんの成長ポイントが見付けられるようにする。 ◆すみれちゃんと自分の経験や気持ちを結び付けて比べながら読み、すみれちゃんの成長に気付いて発表している。 ◆すみれちゃんの行動や場面の様子から、すみれちゃんと自分とを重ね合わせ、想像を広げて読んでいる。
4, 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。	☆次時は「すみれちゃんシリーズ」を読んで同じように成長ポイントを見付け、発表し合うことを確認する。

くらべて読もう「わたしはおねえさん」

すみれちゃんと自分とをくらべながら「わたしはおねえさん」を読み、せい長ポイントを見つけてはっぴょうし合おう。

すみれちゃんがせい長したなと思うすがた

・半分ぐらい、なきそう

もう半分は、おこりそう

前のすみれちゃんだったからおこった

・じっとノートを見ていた

↓がまん、気持ちをおちつかせている

・もういちど、ノートを見ました。じっと。ずっと。

↓かりんちゃんもべんきょうしたかったのかな。

↓わたしが水やりしてたの見てたんだ。

・「あはは」

↓わたしのまねしてかわいいいな

・「こんどはねえねがおべんきょうするから、

ちよっとどいてね」

前はかさなかった

↓やさしくなってる

・けしかけて、でもけすのをやめた

↓いっしょうけんめいかいたからけすのはやめよう

・おあい手さんが学校

たんけんの時どこか

に行っちゃって、同じ

気持ちになった。

・自分だったらおこっちゃう。

・自分だったら、書いちゃだめだよって言う。

・自分も弟に落書きされたことある。ないてお

母さん

におこ

っても

らった。

挿絵

・自分もすみれちゃんみたいな

にやさしく言っ

たことある。

・自分だったらけしちゃう。だってわたしのノ

ートだから

・自分だったら同じようにけさないでおく。ま

だ小さいからこのノ

ートに書いていいか

分からないから

☆自分自身と比べられない児童には、毎日その日にあった出来事を簡単にまとめた「クラスの足あと」や生活科の「みつけたよカード」を参考にさせ、すみれちゃんと同じようなことがなかったかを思い出させる。